

## 広島市立大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」 事業終了後の方針（案）

（記号 ■：終了 ○：継続 ◎：充実 △：調整中）

【基本方針】 補助期間終了後においても、地域に貢献する人材の育成など、大学の教育研究力を生かし、広島都市圏の都市機能の充実・強化及び地域の活性化に取り組む。  
このため、COC+事業で開始した地域志向教育カリキュラムやアートプロジェクトなど、主要な事業は継続・発展させ、地域の自治体等とも個別の取組を通じて関係を深めていく。

区分	事業	COC+事業終了後の方針		
		記号	COC+校	COC+参加校
1 地域志向型の教育カリキュラムの整備・推進	①「地域貢献特定プログラム」の実施	◎	「地域貢献特定プログラム」を発展的に継続する。 科目構成の見直しを行い、単位取得認定者の増加を図る。 全学共通系科目の「創作と人間」に代えて「地域ボランティア活動（仮）」を寄付講座として開講する。 地域志向教育の内容の充実、科目増を検討する。	—
	②COC+単位互換の実施	○	COC+の単位互換協定は終了するが、提供された地域志向科目の大部分を「教育ネットワーク中国」の単位互換制度で履修可能にする。	
	③寄付講座の開講	○	2 講座を開講予定	各校において講座の継続を予定。
	④全学 COC+研修会の開催	○	地域教育についての研修は必要であり、内容を検討し継続する。	—
2 観光関連データベースの構築・活用	①データの活用	○	引き続き教育研究に活用する。 管理を社会連携センターから情報科学部へ移管。データの更新は行わない。	—
3 アートプロジェクト等の教育研究事業の実施	①アートプロジェクトの実施	◎	芸術学部において、地域展開型の芸術プロジェクトとして発展的に継続し、地域での実践的な教育を推進する。	—
	②活動拠点の整備・活用	◎	広島市の基町プロジェクトの拠点「M98」は継続し、プロジェクトを発展させる。	—
		■	廿日市市のサテライトハウス宮島は終了する。	
	③参加校による協働研究事業の実施	△	—	各校の予算の下に実施可能な事業については継続を検討する。
	④大学連携による学生の観光研究・活動発表会	△	参加大学の持ち回りにより、継続して開催する方向で調整中。	
	⑤COC+特色研究等の実施	○	継続する。	—
⑥サテライト講座の開催	■	終了する。	—	
4 インターンシップの強化	①インターンシップの実施	◎	引き続き地域の企業等へのインターンシップを促進する。	
	②キャリア教育の見直し	◎	キャリア形成支援科目に「インターンシップ・ベーシック」を追加するなど充実を図る。	—

## 5 事業運営等

区分	記号	COC+事業終了後の方針
①事業協働協議会の運営	■	COC+の事業推進に特化した役割であったため、協議会の組織としては収束する。
	○	広島広域都市圏を中心とした市町とは、演習科目やアートプロジェクトなど個別の地域事業を通じた関係を可能な限り継続・拡大する。
②学内推進組織の運営	○	引き続き、学長・理事長のリーダーシップの下に、企画・戦略担当理事(副学長)、教育・研究担当理事(副学長)等を中心とした学内組織(教育研究評議会、運営調整会議等)により、継続する事業の協議、推進にあたる。COC+関係委員会は学内の既存の委員会に引き継ぎ、経常業務化する。  地域教育カリキュラムや芸術プロジェクトを担う教職員として、特任教員等4名、事務補助職員1名の体制とする。
③COC+フォーラムの開催	■	終了する
④広報活動	○	COC+の実績を大学ホームページで継続して閲覧できるようにする。また、地域教育や地域貢献に関する情報を既存の媒体により広報する。
⑤事業報告書の作成	■	終了する
⑥事業評価	■	終了する
⑦資金的な継続性	○	継続する事業に必要な人員の雇用、及び事業の実施に係る経費については、基本的には本学の自己財源を充当し、一部は外部資金を充てながら推進する。